

## IV 分娩時の注意点

### 1 分娩の基本は「監視すれども関与せず」

分娩の理想は「自然分娩」です。これは、ただ手をかけず放置することではなく、昔からいわれている「分娩は監視すれども関与せず」という意味です。畜主が行うべきことは、ストレスから解放された衛生的な環境を、母牛に提供することにあるといつても過言ではありません。

分娩介助はあくまで母牛の手助けであって、子牛を人間の都合で無理に引っ張り出す行為ではありません。

この章では分娩の流れを再確認するとともに、介助に関しては我慢して待つことの重要性について考えてみましょう。

#### (1) 難産はなぜ起こる？

難産の大きな要因は、①胎子の過大・骨盤狭小、②胎子失位・奇形・多胎、③陣痛微弱や子宮捻転など、そして何より④間違った介助・早すぎる介助にあると言われています。

間違った介助は、母子共に生命の危険にさらされる他、その後の生産性を大きく損ねる要因であり、正しい介助を身につけることは、必ず生産性向上に直結します(図1)。

#### (2) 獣医師による診察が必要なケース

分娩の基本は自然分娩ですが、それは放置したままで良いという意味ではありません。一部に介助を必要とする分娩があるのも事実です(表1)。

次のような場合には、緊急介助のために獣医師を呼ぶようにしましょう。

表1 異常産の徴候

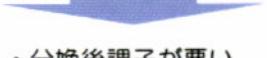
|   | 徴 候      | 原 因            |
|---|----------|----------------|
| 1 | 外陰部から出血  | 胎盤剥離など         |
| 2 | 陣痛の急な発生  | 子宮捻転など         |
| 3 | 外陰部のねじれ  | 子宮捻転など         |
| 4 | 陣痛の消失    | 母牛の疲れ、陣痛の微弱    |
| 5 | 羊水の悪臭と濁り | 胎便排出、死産による羊水腐敗 |

### 2 分娩の流れと処置の選択

分娩兆候が見られるようになってから一次破水まで1時間前後経過したのち二次破水を迎えます。二次破水後は胎子が外陰部から露出し、陣痛に併せて徐々に産道は開張し、通常は経産牛で1時間、未経産(初産)牛で2時間後には分娩します(図2)。

時折観察し、分娩が順調に進行しているか確認しましょう。

- ・「待つのが面倒だから」といった安易な気持ちでチェーンを使う
- ・「特に理由もなく羊膜が出たらとにかく破る」



- ・分娩後調子が悪い
- ・子牛に元気がない



- ・介助を我慢して待っていたら母子共に健康だったかも

図1 間違った介助は生産性を損なう

## <自然分娩の流れ>

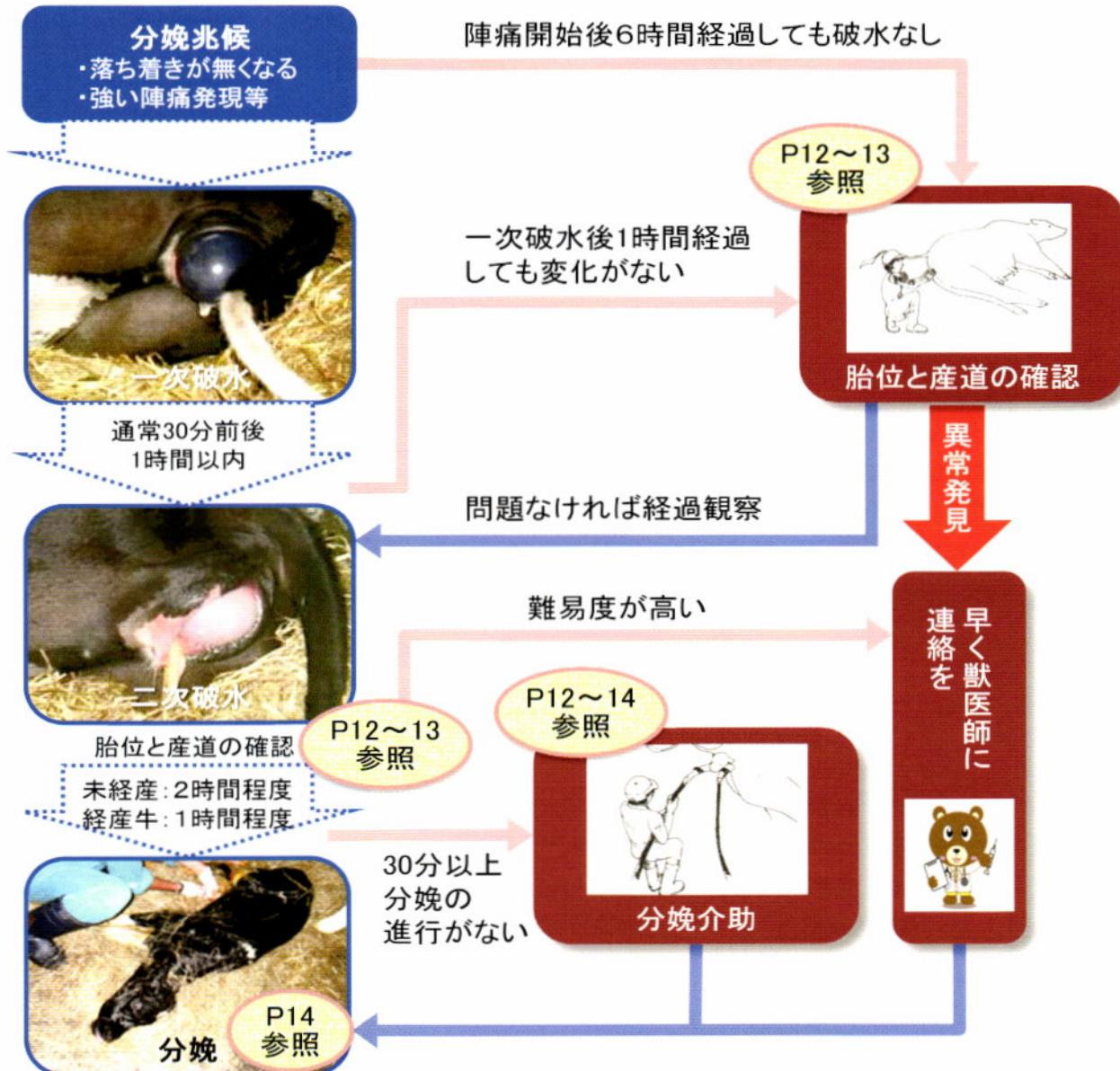


図2 分娩までの大まかな流れ(写真提供:帯広畜産大学 石井)

### 3 分娩介助の方法

介助が必要と判断したなら、衛生的な方法で丁寧にかつ迅速に行います。そのためには、事前の準備と心構えが重要になってきます。「段取りの良し悪し」で成功率が大きく変わってきます。

#### (1)器具の準備

分娩介助は緊急を要することが多いため、慌てることが無いよう器具の置き場所を定め、散乱させないようにしましょう(図3)。

助産器具は、見た目では汚れが見えなくても使用前には、消毒薬に漬けておき、器具の消毒を行いましょう。

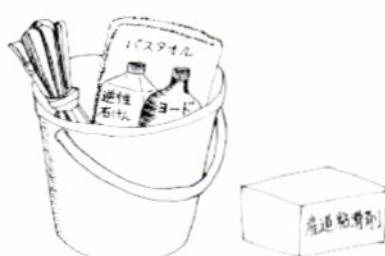


図3 すぐ出せるように保管